

きらめきインタビュー

じんのうち ゆうじ
陣内 雄次さん



＝下野市男女共同参画推進委員会委員長に聞きました！＝

①会長として男女共同参画プランの策定をふまえて、どのような感想を持たれていますか？

委員の皆さんからは、意見が積極的にでています。行政に対しての意見も出るなど、とてもよい運営ができてきていると思います。男女共同参画は、テーマ自体が難しいので、具体的に推進するためにはどのようにしたらよいのかなどを、男女共同参画の視点から、今の時代背景なども考慮しながら、進めていかなければなりません。また、市の施策としても充実させていくことがとても大切と考えます。

②市が実施している男女共同参画事業等については、どのようにお考えですか？

男女共同参画プランは啓蒙啓発が大きな目的です。これは、広く浅くといえますが、ドメスティック・バイオレンスなどは、重点的に緊急に対応する必要があります。男女共同参画推進委員会や市民の皆さんは行政の施策をチェックし、行政にできないところは協力していかなければなりません。

③下野市では市民による「男女共同参画情報紙～シェアリング～」を発行しましたが、どのようにお感じですか？

発行して終わりではなく、読んでもらえて、尚かつ活用方法なども考えなければなりません。あらゆる機会を使って、男女共同参画を理解していただく努力が必要です。たとえば、女性や子育てなどの団体の市民グループや自治会などを通して広める工夫等を考えなければなりません。

④推進委員会は今後どう展開したらよいと思いますか？

プランの進捗状況のチェックだけでなく、その中からNPO法人等の市民活動団体に発展できるというですね。行政が中心的に担っていくことだけでなく、市民の立場から継続的に活動を続けることができるシステムを作っていくことが理想です。

⑤行政には何を望みますか？

民間の活動をバックアップして、個々の活動をつないでいくことが重要です。また、その場所や拠点になる場所などを提供していくことも必要なことだと思います。



⑥男女共同参画については、なかなか関心をもってもらえませんが、どうお考えですか？

意識を変えるには時間がかかります。世代交代をして変わっていくことでしょうか。若い人が変えていく。だからこそ、今きちんと若い人に理解してもらわなければならないのです。しかも、継続的でなければなりません。

⑦市民の意識に地域差はありますか？

県内で関わったところは、実態としてはどこも同じように感じます。市は頑張っているが、市民がついてこないという感じでしょうか。活動に参加している人の中でも意識のバラつきや差があります。「男女共同参画はなくても特に困らない。それよりも福祉や子育てにお金を使ってほしい。」と考えている人が多いようです。しかし、本質的なことを考えると、男女共同参画の推進はとても大切なことです。

⑧正しく理解してもらうためには、どうしたらよいのでしょうか？

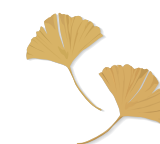
「どうでもいい。」という人とはかみ合いません。活動している人は無力感を感じるでしょう。たとえば、男女共同参画がきちんと確立した10年後はどうなっているか、確立していなかったらどうなっているかなどをイメージしながら、比較してみるといいでしょう。アプローチは、直接的だと毛嫌いされる場合があります。啓蒙活動なども地道に時間をかけ、意識を変えていくことです。時代背景や個人の価値観などが様々なので、これはまさに「教育」と似ています。

⑨陣内先生の「コミュニティ・カフェ」の活動はどのような内容ですか？

多くの方達と知りあえることがメリットであり、気楽に集まって「サロン」のような交流の場になっています。主婦・学生・男性のグループなどが経営しています。この場所では、勉強会など情報発信をすることもできます。出会いや生き甲斐づくりの場でもあります。

※コミュニティ・カフェとは、互いに支え合える地域社会を再構築し様々な人たちが気軽に集える自由な場所のことです。

言いたい放題! 座談会



テーマ「男女格差を感じる時は、どんな時でしょうか？」

今、社会の状況が大きく変わる中で個人や家族のあり方なども大きく変化しています。男女に関わりなく、それぞれの個性と能力が活かせる男女共同参画社会は、私たちみんなの目指すものです。男女共同参画情報紙編集委員会では、下野市内の男女にお集まりいただき、日頃感じていることを語り合ってもらいました。

参加者 Aさん(40歳代、女性)、Bさん(20歳代、女性)、Cさん(60歳代、男性)、Dさん(50歳代、男性)、Eさん(50歳代、女性)、Fさん(40歳代、女性)、Gさん(40歳代、女性)、Hさん(50歳代、男性)

学びの場で男女の格差を感じたことがありますか？

Aさん：娘が女子大学に行っています。理工系では共学だと、実験の時に実験は男子、記録が女子になってしまうけど、女子大学なら実験がやれるから人気だそうです。
Bさん：大学の心理学科在学中です。共学で女性が多く、男女差はあまり感じていません。でも以前、「女の子なのに大学？早く子供を産んでお母さんになるのがいい。」「大学に行っていないお兄さんが行った方がいいんじゃないか。」などと言われてショックでした。

市民の意識の中に地域差はありますか？

Eさん：自治会の会議などに女性が出席すると、「家に夫がいるのに」と言われることもあります。一方、出席した女性たちの中には、自分で決められずに「夫に聞いてから」と言う人もいますね。
Dさん：地域の風習での性別役割分担が、若い世代に受け継がれている部分もあり問題だと思います。以前は私も気になりませんでした。PTA活動に関わるようになって意識が変わりました。変わるきっかけが必要ですね。
Fさん：子供の学校の現PTA役員はすべて女性で、地域性と思いますが、皆さん意見をはっきり言えます。一方で、お父さんたちにも出てきてほしい。いろいろな方たちの意見を聞くことが必要と感じています。
Gさん：女性がはっきりと意見を述べることに、時にはマイナスのイメージを持たれることがあります。特に女性同士の目が厳しい。聞く方の意識の変革も必要ですね。

家庭内でのエピソードについて

Cさん：家事で料理などもやろうとするんですけど、「やり方に無駄が多い。」と文句をつけられます。
Dさん：料理など簡単そうで実際は大変。やれません。
Eさん：私が3日ほど家を空けた時に、家事をしてくれた息子が「お母さんの仕事って大変だね。」と言ってくれました。それからは息子が進んで家事を手伝ってくれています。夫はほとんどしません。これからの時代、男性が家事を覚えて損はないと思います。
Cさん：男のやりやすい部類の家事ってあります。私の場合、風呂掃除、生ゴミ出しは続いています。テクニクのいない、やれるものから入る。
Fさん：うちは私以外はみんな男。3人の息子には小さいころから、家事などもやりたい時にやらせていました。洗剤の近くで水遊びをしていたら、エプロンをつけて手伝わせるとか。それで今息子たちは、ごく自然にやっています。夫は全く家事をやらなかったのですが、そんな息子たちを見てか、自然に毎日のゴミ出しなどしてくれるようになりました。中には途中を見ると何か言いたくなるようなものもありますが、見ない、言わない。
Gさん：男の人は時に、少しでも家事をすると、「やってあげた」って主張する。
Eさん：息子が食事を作ってくれたときには、少々まづくても「おいしかったよ～、ありがとう。」って。子育てとおんなじで、褒めて、おだてて・・・。
Aさん：共働きの息子は、洗濯干しや植物の水やりなどを行っています。息子は「共働きだから当然」と。あるとき息子が料理している間に嫁と孫がテーブルで談笑していて「なんで？」と葛藤を感じたことがあります。口にはしませんでした。
Gさん：昔の姑なら言っていたかも。
Aさん：また、食事中の姿勢について娘に、「女の子なんだから！」と言いました。「こういうことに男も女もないでしょ！」と。自分が言われた時には反発していたのに、娘も同じでした。息子や娘から学びました。
Fさん：息子たちには家事をやらせていますが、これからの嫁さんとの関係が不安です。もし何もしてくれなかったらどうしよう！(笑)

職場ではいかがでしょうか？

Aさん：介護施設の仕事をしています。女性が多いので男性は孤立しがち。そんなスタッフ関係のストレスが利用者に向かっていくようで、男女というより少数派、弱者への格差を感じています。
Cさん：会社を定年になって3年ですが、職場では男女同じように働いていました。むしろ営業などでは花形は少数派の女性で、男性は管理など裏方でしたね。
Dさん：私の職場ではお茶もコピーも自分でします。来客時には男女問わず、自分のお客には自分で出しますが、男が出すとギョッとされる方もいらっしゃいます。
Cさん：職場環境は進んだけど、実際問題として女性の産休のときなどの人員の手当てに非常に苦労する職場が多いと思います。法律だけ作るのではなく、行政の支援や表彰制度などをもっと充実させてほしいですね。
Fさん：音楽演奏の仕事をしていて、いろいろなどころに行きます。実力の世界なのですが、栃木県では実力以外の部分で特殊な目で見られることが多いと感じます。女性にとっては東京などより厳しいところがあります。

お仕事をしている介護の現場では何かありますか？

Aさん：介護施設に入居された方の洗濯物を取りにいらっしやるのは、男性が多いですね。
Gさん：男性が積極的に介護にかかわっていると？
Aさん：ではなくて、嫁、姑問題が関係しているように思います。私がしてきたのだから次はあなた、と言われて色々あった背景があるような。取りに来た男性の多くは黙ってただ持ってきたものを置き、持って帰るだけ。会話もなく見ていてすごくさみしい。
Eさん：同居の義父母を見ていて、実の娘と私を比較すると、同じ行為をしても実の娘は「大したもんだ」だけど、嫁である私は「当たり前」。こういう意識を変えるのはかなり難しいと思いますが、この意識を変えない限り、よい関係にはならないと思います。

～座談会にご協力いただきありがとうございました。～